

○第44回（平成28年1月14日）評価委員会評価

今年度の連携排砂は、7月1日から7月3日にかけて連携排砂、7月23日から24日にかけて細砂通過放流が実施された。

出し平ダムからの排砂量は、目標排砂量16万 m^3 、想定変動範囲の6万 m^3 から27万 m^3 に対し、実績は19万 m^3 となる結果となった。

水質、底質及び生物相の環境調査結果をみる限り、連携排砂による一時的な環境の変化はあるものの、出水状況及び9月調査結果等から大きな影響を及ぼしたとは考えられない。細砂通過放流においては、濁度の状況から通常の出水と同程度であったと考えられる。

◇水生生物調査について

- ・河川では付着藻類、海域では植物プランクトンの生物相の変化が見受けられていることから、引き続き調査検討が必要である。

◇今後の留意点

- ・大粒径土砂移動調査については、土砂移動の実態を把握できるよう精度の向上に努めること。
- ・連携排砂等の実施については、今回の審議内容を踏まえ、次年度の排砂計画に反映させること。